

嘉悦ケンブリッジ教育文化センター（英国ケンブリッジ在）

担当：ロバーツ平 浩子さん

平和の一步は人を信じることから始まり、人を信じられなければ空はつながらない。

JAPAN DAY 2015
2015年3月7日(土)開催

嘉悦学園（東京都）とケンブリッジ大学が協定を結び設置されたのが、同センター。その文化交流事業として実施されてきたのがジャパンデーである。毎年、日本各地の様々な文化を紹介してきた。13回目を迎えた今年、戦後70年の節目であることから、沖縄県平和資料館との連携が実現した。今回のジャパンデー全体では、600名ほどの来場者があり盛況であった。

昨年、同センターで日本語を学ぶ生徒と、日本国内のメディア情報を探していたロバーツ平さん。沖縄の地方紙に掲載されていた増田健琉君作の「空はつながっている」の内容に感銘を受けた。この平和の詩の朗読と沖縄戦を紹介する展示を、ジャパンデーで行うことをロバーツ平さんが決意したことが、イギリスと沖縄を結びつけるきっかけとなった。

(JAPAN DAY 2015 ポスター)



One Blue Sky
A poem from Okinawa

(1) 増田健琉君作 平和の詩「空はつながっている」 多言語訳、朗読者選出

詩の英訳は、現地の10代の若者をお願いをした。それ以外の翻訳に関しては、ロバーツ平さんの個人的な知人に依頼をしたとのこと。現在、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、韓国語、アラビア語、ヘブライ語の8ヶ国語訳ができています。

翻訳した方々は、英語以外 は大人であった。朗読に関しては、子供（増田健琉君）の書いた詩なので、できれば若い人達に朗読して欲しいとの想いから、ケンブリッジのコミュニティ・スクール（伝承言語）関係者に朗読者選出の協力依頼をおこなった。ドイツ語、フランス語・スペイン語の協力者はすぐに見つかったとのこと。（スペイン語の協力者は、当日の都合がつかなかった。）

中国語の学校からは返事がなく、韓国語の学校からは返事はあったが朗読者は見つからなかった。

アラビア語の学校からは、「朗読の協力はしたいが、女性が、ニカブという顔を覆うマスクをしたままでもよいか？」という質問があった。「当日は、着物（日本での伝統衣装）を着ている人もいるぐらいですので、全く問題はありません。」とロバーツ平さんが回答。アラビア語の朗読者も参加が可能となった。ヘブライ語に関しては、翻訳の仕上がりが遅かった為、朗読者の手配ができずにいた。

（2）中国人女性との本音の関わり。そして、桜模様のチャイナドレス。

個人的に、日本の隣国の言語である中国語か韓国語の朗読は入りたいと思っていたロバーツ平さん。知人の中国人女性へ依頼を試みた。ロバーツ平さんから、口頭で朗読への協力依頼をされた彼女は、「いいですよ」と、気軽に承諾してくれた。

しかし、増田君の詩のコピーと沖縄に関する情報をメールで提供すると、以下のような内容の返信が届いたという。

「私の父は南京の出身です。日本人は南京で30万人を虐殺し、2万人を強姦しました。私はティーンエイジャーの頃、何度も南京の戦争博物館を訪れました。

私はこの詩を朗読するということに葛藤を覚えます。でも、私の本能がこの詩を読むことはよいことだと言っています。ですので、読みます。但し、この詩（中国訳）はあまり詩的でないので、私に訳をやり直させてください。」

その内容に戸惑いを感じたロバーツ平さん。「当日、彼女は本当に、増田君の詩『空はつながっている』をそのまま読んでくれるだろうか」という疑念を抱き、さらには「政治演説を始めたりしないだろうか」と、心配になったという。

でも、「平和の一步は人を信じることから始まり、人を信じられなければ空はつながらない」と思いなおし、ロバーツ平さんは、以下のような返事を書き送った。

「お返事ありがとうございます。南京の犠牲者の数に、いろいろな説があることは私も知っています。でも、もし、私の父や夫や息子が虐殺されたら、もし、私の母や私や娘が強姦されたら、それがたった一人だったとしても多過ぎます。この世の中にはそのようなケースがたくさんあり、悲しみが溢れています。でも、私は、平和を築くために何かをしたいのです。ですので、あなたが読んでくれると言ったことに感謝します。

ただ、この詩は、8歳の少年が書いたものですから、詩的な技法を駆使してあるわけではありません。訳してくれた方には、できるだけ直訳し、子供の素直な気持ちをそのまま表現してくれるようお願いしました。ですので、どうぞそのまま朗読してください。」

自身の本音を彼女に伝えたロバーツ平さん。その想いは、無事に彼女に届いた。それどころか、彼女は、ジャパNDER当日に重なっていた仕事を休んでまで朗読に駆けつけてくれた。さらに「今日は、日本のイベントだから、この服を着てきたのよ」と桜の模様に入ったチャイナドレス姿での参加であった。

「たった一人の中国人女性に、この詩を朗読してもらうことすら諦めてしまおうかと思った時もあった」と述懐するロバーツ平さん。

『世界平和』という素晴らしいスローガンも、それを実現するのは簡単ではない」と続けた。

【舞台上で紹介される朗読者の方々】

(ロバーツ平氏 提供)

スクリーンでは、沖縄戦のイメージ映像も紹介している。朗読前に沖縄についても紹介。詩の朗読に至った経緯もあわせて紹介された。



(3) 「平和の詩」朗読。「感動で鳥肌がたった」など、反響が広がる。

朗読会場には、100名ほどの来場者があった。各国語で朗読中にも、スクリーンには、詩のイメージにあわせた青空や「沖縄戦の証言」に出てくる子供の映像、ケンブリッジの子供達の描いた絵などが映し出された。

朗読を聞いた来場者からは、「感動で鳥肌がたった」「英語のコピーがほしい」「ウェブサイトから詩をダウンロードできるようにしてほしい」という声が相次いだ。朗読された詩の原作者が、8歳の子供であるということに驚く方もいた。

「平和学習キット」初の海外展示 沖縄戦とイギリス

当日、朗読のほか「平和学習キット（Aセット）」と、8カ国語に翻訳された平和の詩の展示コーナーが設けられた。

一日中、見学者が絶えず、平和の詩を読んで涙ぐむ人の姿も見られた。展示品には、備え付け日本語キャプションのほか、詩の翻訳を手がけた子供たちが英訳したキャプションも並んだ。



【「平和学習キット」 見学する来場者たち】
(ロバーツ平氏 提供)

(1) 沖縄戦 資料展示会での反応

来場者の反応については、以下のような声を聞きけた。

- ・ 改姓・改名を迫られたり奨励されたりしたなんて、酷い。でも、ヨーロッパでも出自を隠すために改姓する例はあった。
- ・ 方言札にショック。
- ・ 算数の教科書で、戦車や飛行機を数えるなんて、驚き。
- ・ 算数の教科書が、普通のページもあるのに、いつの間にか争いを奨励するような内容が入っているのが怖い。教育は大切。

来場者の中には、ケンブリッジ在住の日本人もいた。若い人達の中には、沖縄県が、戦後、アメリカ領(アメリカ占領下)になっていたことを知らない人もいたようである。事実、米軍占領下の沖縄において、日本本土に渡航するために発効された「渡航証」などに驚いている方もいた。

(2) イギリス国内における「沖縄戦」の取り扱い

ロバート平さんによれば、イギリスでは、一般的に中学校における歴史の時間で「沖縄戦」が扱われるようである。第二次世界大戦における日本との戦争について、「沖縄戦、東京大空襲、ヒロシマ、ナガサキ」を関連づけた内容とのこと。その際、「沖縄戦の激しさは、アメリカにとって、日本本土に上陸した際にアメリカ軍に甚大な被害をもたらすであろうという考え方の根拠となり、原子爆弾を使用する根拠ともなった」とも教えられているようである。

朗読の前に行われた沖縄戦についての説明では、その規模の大きさと被害者(特に民間人)の多さに、会場の人達は驚いているようであった。また、平和の礎にイギリス人の名前が刻銘(82名分)されていることについて、知らない方が殆どであるようだった。

今年には戦後70周年ということもあり、BBCのウェブサイトでも、先日、東京大空襲について取り上げられていた。その放送内容の中で、「ヒロシマやナガサキに匹敵するような被害を出した東京大空襲に関し、今まであまり報道されてこなかったし、若い世代の日本人でさえ、そのような事実を知らない人が多い」と紹介されていた。

「ドイツのドレスデン大空襲やポーランドのアウシュヴィッツ収容所の解放などからも、今年には70周年なので、東京大空襲の報道がありました。沖縄戦に関しても、もっと知ってもらうことが大事だと感じた」と、ロバーツ平さんは述べている。

「沖縄戦平和学習」今後のシェアリングのために
～ 実践事例No.1【嘉悦ケンブリッジ教育文化センター編】～

「平和の詩」に込められたメッセージは、国境を越えて共感を与えることができる。

今年(2015)で25回目を迎える当資料館の「児童・生徒の平和メッセージ展」。毎年、多くの応募があり素晴らしい作品が入賞を果たしています。とくに6月23日の「慰霊の日」に沖縄全戦没者追悼式において朗読される「平和の詩」は、朗読、翻訳のほか、絵本化されたり合唱曲がつくられるなど、共感の広がりが顕著となっています。今後、作品を応募する児童や生徒にとっても、自分自身の感性が国内外に広く伝わっていくチャンスになっていくのではないのでしょうか。沖縄県平和祈念資料館にとっても、「児童・生徒の平和メッセージ展」は、設立理念を具体化していく大切な取り組みのひとつとなっています。平和を希求する心(ウムイ)を世界に発信していくためには、発信したメッセージを受け止める(受信する)側についての理解も必要となります。受信する側が、当館のメッセージをどのように解釈し活用していくのかへの理解です。

今回の嘉悦ケンブリッジ教育文化センターでの取り組みは、「平和の詩」のメッセージが、国境を越えて、国籍や宗教の垣根を越えて、共感を与えることができるということを示してくれたと実感しています。担当者のロバーツ平 浩子様のご尽力にこころより感謝を申し上げます。

☆シェアリングにおける視点☆ ～翻訳活動、キット貸出～
・外国語活動 ・国際理解教育 ・多文化社会/共生社会